

SORA

web magazine 2018.aug. vol.99

Travel

TAHITI FAKARAVA

MAP
CLICK!

ファカラバ PHOTO & TEXT : YASUAKI KAGII ー未開の海中景色を求めてー

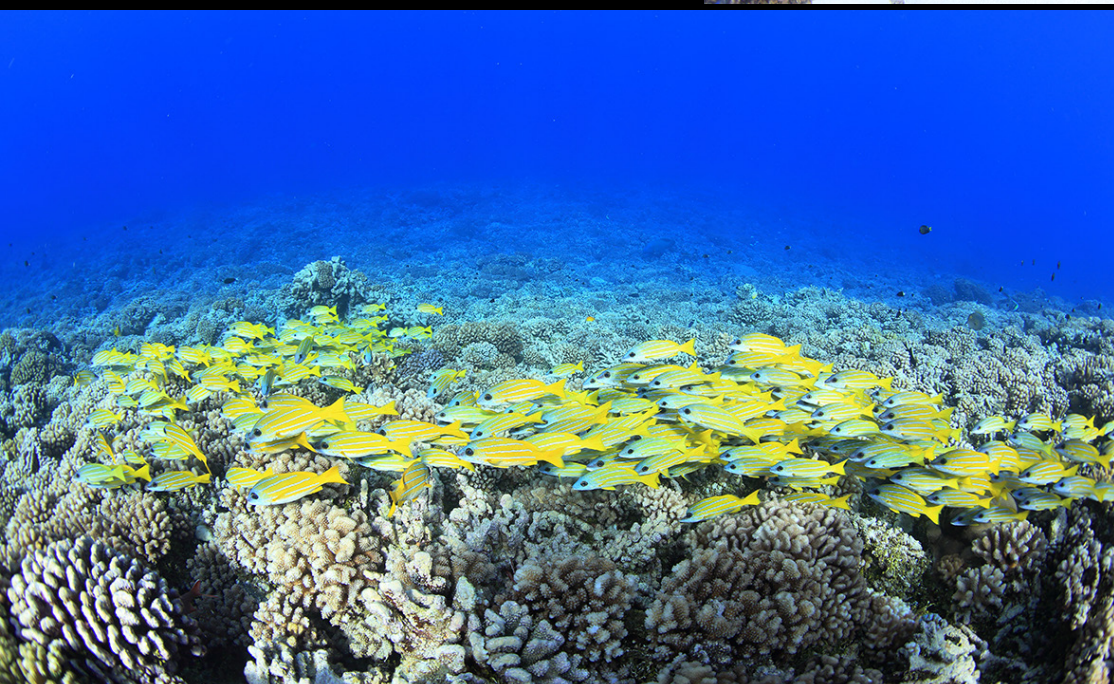
ランギロアから国内線で約1時間。フライトの間、眼下には数個の美しい大きな環礁が見える。そしてランギロアに次いで2番目に大きな環礁に近づくと、飛行機は降下を始めた。ファカラバ空港に到着。荷物をピックアップして送迎車で桟橋に向かう。所要時間は約30分。そこでボートに乗り換え、まずファカラバ・サウスに向かった。今回滞在するリゾートまでは、約1時間20分。とても長い移動時間を要したが、それでも、それだけの距離を移動する価値に見合った海が広がっていた。



TAHITI ファカラバ FAKARAVA

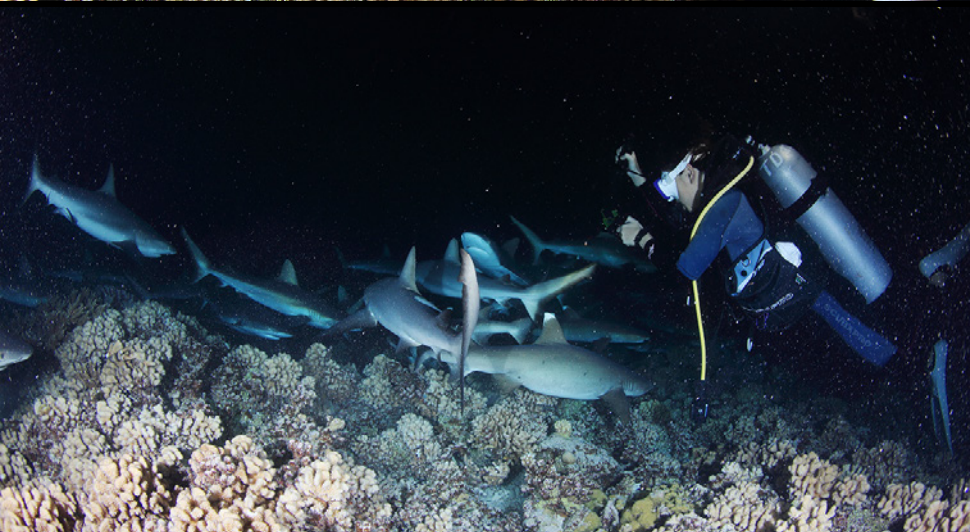
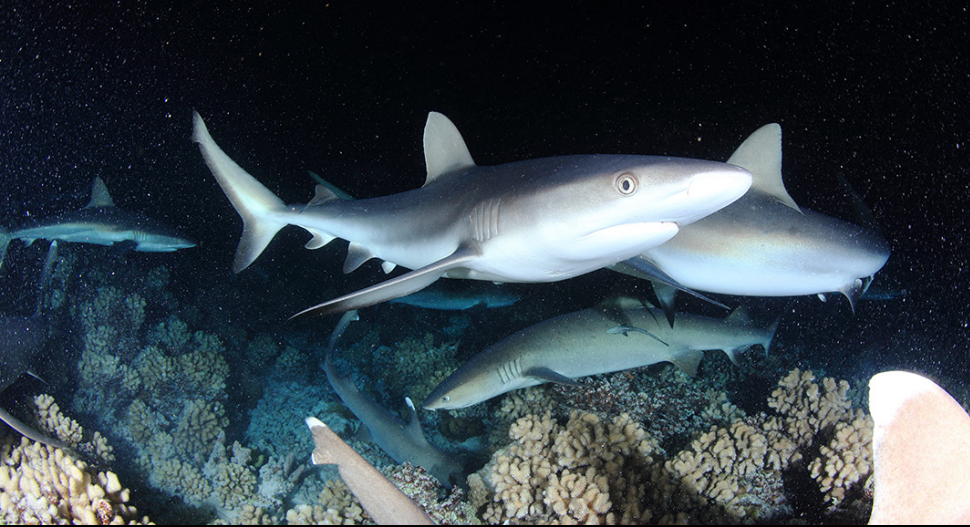
ファカラバ・サウスで 驚きの1ダイブ!

滞在した Tetamanu Village は、メインのパスの前に位置する。メインの
 桟橋の隣にある桟橋に朝8時に集合して、ここで器材を借りたり、セットア
 ヅを行う。そして、桟橋に着けてあるダイビングポートに乗り込み、いざ、ダ
 イビングへ。環礁のパスの外洋側に向かい、エントリー。ポートでの移動時
 間が5分以内。エントリーしてまず驚いたのが、透明度の高さ。マスクの前の
 泡が消えた瞬間、真っ青な世界が眼前に広がる。ガイドと共に、ゆっくりと
 水深を落とす。まず、まっすぐと伸びる細い砂地が見える。まるで海底の道
 のように思えるその砂地の上を飛んでいく。するとアジの仲間やネムリブカが現
 れる。そして、小高いリーフが現れ、ガイドが少し右に行こうと合図する。



サメ! サメ! サメ!

ガイドの指差す方向には、グレーリーフシャークの群れ、群れ、群れが泳いでいる。私たちダイバーがいる深度は約19m。少し深いと思われるが、透明度も高いので、ストレスはまったく感じない。それ以上に、川のように流れるサメの群れが圧巻。所々にクリーニングステーションがあり、サメは身を翻してはクリーニングを受けている。約100mほどだろうか、その間は、サメが大行列をしていた。ひとしきりサメを見終えた後は、深度を上げながら、潮の流れに身を乗せていく。すると3匹のナポレオンが登場。接近しても逃げる気配はなく、良きモデルを務めてくれた。そして、種類はそれほど多くはないが、美しい珊瑚の海底を泳いでいく。途中でヨスジフエダイの群れとアカヒメジの群れに遭遇。青い海にどちらの群れも映えていた。そして、少し進むと栈橋が見え、そこでダイビングを終え、上がってみると、朝集合した栈橋だった。エキサイティングなダイビングの後の不思議な展開。ちょっと夢見心地の1ダイブとなった。



ナイトダイビングも、サメ! サメ! サメ!

夕方6時に、栈橋の先にあるダイビングセンター&ポート乗り場で集合。そこでセッティングをしていると「潮が速いので、20分待ってください」と告げられる。今回潜るのは、ダイビングセンター前のエリア。常に潮の流れの変化があるため、そのようなダイビング前の調整は多々あると聞いた。潮の流れが落ち着いた頃、栈橋からジャイアントスライドでエントリー。ゆっくりとした潮の流れに乗りながら、リーフを左手に進んでいく。海底では、川のようにヒメフェダイが流れ、その周囲をメジロザメが徘徊している。エントリー直後から、もう興奮状態が続く。少し進み、潮の流れのない場所に到着すると、大きなライトを持ったガイドが一点を照らす。すると小魚の姿を探し、ハンティングしてやろうというメジロザメとネムリブカがどんどんと集まってくる。ライトの明かりに浮かぶ大きなシルエットがたくさん交差する。そして、ダイビングの最後、みんなで少しずつ深度を上げた時、1匹のサメが狂うように身を翻すとたくさんのサメがそこに目がけて突っ込んでいく。1匹の獲物をめぐって、狂乱状態になるサメたち。このようなナイトダイビングは経験したことがあるが、メジロザメの捕食シーンは初めてだった。お魚の骨を「バキバキ」と牙で折る音がリアルに海中に響く。恐怖か? 興奮か? わからない刺激が全身を襲う。無事にダイビングを終えた後、今回一緒に潜った経験豊富なダイバーが「こんな経験したことがない!!!」と大興奮していた。それは、私も同じだった。

TAHITI ファカラバ
FAKARAVA

アドレナリンが、半端ない！

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく島



ファカラバ・ノースへ!

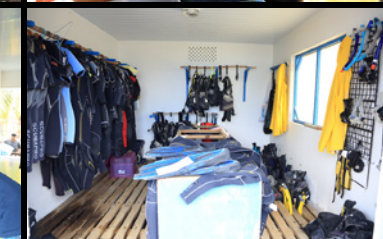
今回は、視察ツアーを兼ねていたもので、午後はなんとファカラバ・ノースに行っていたダイビングとなった。11時半に Tetamanu Village をボートで出航。約1時間20分北上して、ノースの桟橋に着く。そこから送迎車で、今回お世話になる DIVE SPIRIT FAKARAVA まで移動。ダイビングセンターで挨拶やセッティングを済ませ、出航。午後は潮の流れがアウトゴーイングだったので、OHOTU という外洋のポイントでダイビングを楽しんだ。ダイビングセンターからボートで約15分で到着。バックロールでエントリー。青い海の中潜降していくと、水深10mほどのリーフの上に大きな黒影がいくつか見える。見慣れない景色だなと思い接近すると、それはヒメフエダイの群れだと気がつく。少し撮影してガイドの方向を見ると、ブルーウォーターの下方を指差しながら、両腕を波のように振っている。目を凝らして、海底を見つめると、大きなマンタがゆっくりと泳いでいる。水深を落として撮影しようかと思ったが、軽く-40mは超えていたので、思い止まる。初めてお世話になるダイビングセンターで、初めてのガイドさんだったので、どのくらい無理をして良いのか?わからず……だったので(笑)。そして、コーナーに向けてリーフを左手に見ながら流していく。メジロザメやネムリブカ、ナポレオンが現れる。彼はゆったりと優雅に泳いでいる。ブルーウォーターで、バラクーダの群れやメジロザメの子供たちの群れが泳ぎ去る。また、アジの仲間も目の前を泳いでいく。約50分のダイブタイムを終え、ガイドのマティアスの指示のもと、安全停止を行う。「こっちに来て!かたまりましょう!」など、指示がなかなか細かい。安全管理はとてもしっかりしている。この1ダイブでファカラバ・ノースを知るのには難しいけど、ゆっくりと潮の流れの中、ピースフルな景観が続いていた。



TAHITI ファカラバ FAKARAVA



今回、お世話になったダイビングセンターは、DIVE SPIRIT FAKARAVA。タヒチのパバーテで長く経験を積んだスペイン人のマティアスとフランス人のアイリーン夫妻が約7年前にオープンしたダイビングセンター。海岸線の店舗には、ダイビング専用の桟橋を持つ。安全管理に徹底したダイビングスタイルが特徴。



リゾートを歩いていると、キッチンから捨てられるチキンなどにラグーンのサメが反応していた。これはチャンスと水中撮影。ファカラバ・サウスは、サメだらけ&生き物だらけ。栈橋からもナポレオンやブダイにたくさん会える。

TAHITI ファカラバ
FAKARAVA



昔のシパダンを思い出したTetamanu Village

朝、島の反対から太陽が昇る。木造のバンガローにはエアコンがないために、扇風機を回しながら、窓を開けて寝る。朝日が部屋に入り込むと、天蓋の白い布を優しいオレンジ色に染める。その非日常的な美しさの中で目が覚める。ダイビングで疲れた体を起こしバンガローの外に出ると、朝焼けがTetamanu Village を色付ける。日中は青く眩しい海の景色ばかりだから、朝のほんのひとときの色の違う景色は貴重だと思う。海に架かる栈橋を渡ると、ブラックチップシャークの幼魚がたくさん泳いでいる。昨日の日中も、ナイトダイブでもサメをたくさん見た。このファカラバ・サウスにいます、常にサメが身近にいてくれるように感じる。Tetamanu Village は、海岸線に立つバンガローと水上レストラン、水上ダイビングセンターがメインの宿泊施設で、ラグジュアリーでは決していないが、居心地は悪

くない。バンガローにはトイレ、シャワーも付いているが、シャワーは水のみで、バンガローによって水量が違うようだ。この環境を見て思い出したのが、昔のシパダンだった。ダイビングのために作られた簡易だけど無駄がない施設。ダイビング、海の中はピカイチだから、そんな環境を保持できるこれくらいの施設の方が良いのでは、と思ってしまう。そして、スタッフも良い。マネージャーもレセプションもシェフもみんな笑顔。食事も、サラダ、チキン、ビーフ、ポーク、そしてフィッシュなど、どれも美味しく、日本人の口に合う。このチキンが調理される時、骨の部分がキッチンから海に投げられる。すると浅瀬にブラックチップシャークが集まってくる。そこでスノーケリングしてみたが、これまたダイビングにも負けないくらいのエキサイティングな時間だった。



Tetamanu DIVE

メインのダイビングポイントであるトゥマコフアパス沿いに位置する Tetamanu Village にあるダイビングセンター。メインのパスに近いので、ポイントまでのアクセスがとても良い。レンタル器材、ナイトロックを完備。サウスファカラバを一躍有名にしたのは、ハタの大産卵。期間は6月下旬から7月上旬の新月周りで、2019年まで予約がいっぱいとのこと。他の期間でも、ガイドのラファエル&テリバイアは、ファカラバでダイビングをするなら、お魚たちの産卵行動が多くなる新月がお薦めだと話してくれた。



ファカラバ・ノースの宿泊施設など

ファカラバ・ノースには、9つのペンションとハヴァイキリゾートがある。ファカラバは大きなパスが北と南にあり、その両方にロッジやダイビングセンターがある。基本的に、北に滞在すれば北のパス。南に滞在すれば、南のパスとなる（事前予約で、北から南に行くこともある）。今回滞在したのは北のエリア。街は海岸沿いの1本道に、小さな商店、ダイビングセンター、カトリックの教会などが点々と並ぶ。大きな町ではないが、自転車で散歩するくらいがちょうど良いのでは。

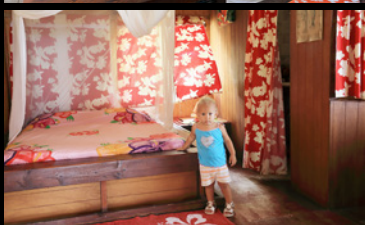
Vaiama Village

海岸線の広い敷地内に6つのバンガローを持つ。バンガロー内は、ツインとシングルベッドが用意され、天蓋付き。シンプルだが南国らしい雰囲気。海岸線に並ぶので、バンガローのデッキからの景色は美しい。水圧のある温水シャワーあり。レセプションのみ wifi フリー。朝食、夕食付きのハーフボード。



Pension Paparara

海岸線の広い敷地内には、中央に位置する広いレストランの隣にピザ釜を持つ。ツインとシングルベッドを完備した5つのバンガローが並ぶ。レセプションのみ wifi フリー。フリーのレンタルカヤックもある。同じ敷地内に O2 ダイブセンターを併設。



Tokerav Village

日本人ゲストが多いペンションで、敷地内には、日本庭園のようなエッセンスもあり、オーナーの日本への興味が伺える。客室は4部屋で、ツインとシングルのベッドを完備。エアコンはないが、部屋には大きな窓やドアがあり、風通しが良い。温水シャワーの水圧は高い。パブリックエリアは wifi フリー。レンタルバイクあり。



Korikori Snack

海岸線に立つレストランで、地元の人や近くのペンションからのゲストも多い。2部屋の客室があり、4名部屋と2名部屋。朝食付き、2名で約 15,000 円のリーズナブルなプライス。客室は清潔感があり、エアコン、冷蔵庫、レンジ完備。客室内では wifi フリー。

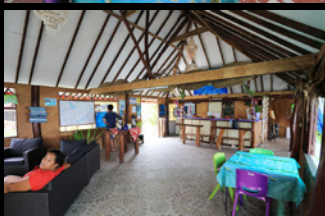


TAHITI ファカラバ FAKARAVA



Vekeveke Village

6つのビーチバンガローと2つのファミリーバンガローの計8つのバンガローが並ぶ。ファミリーバンガローは最大収容人数は6名。レストラン（朝7時から 21 時まで）では、wifi フリー。朝、夕食のハーフボード。レンタルバイクあり。カヤックはフリー。



Snack

周囲のペンションのゲストがよく利用するレストランで、朝食とランチのみオープン。日曜日の夜だけがクローズ。



Havaiki

ファカラバ・ノースで、海岸線に位置する唯一のリゾート。豪華ホテルではないが、リゾート気分を十二分に堪能できる。1年に一度、12月には客室などリノベーションを行うので常に新しい。客室は14部屋。カヤックや SUP など様々なアクティビティも用意されている。ファカラバ・ノースで、ワンランク上の宿泊施設を求める方にはオススメ。



TAHITI ファカラバ FAKARAVA



Top Dive Fakarava

ファカラバには、北と南に Top Dive Fakarava はある。北のお店で、ガイドはマネジャーのフランシスカ（ニックネームはシス）とマナ、そしてチャージングなスタッフが揃う。潮を見ながら、その日のダイビングの潜り方を決めていくので、午前2本、午後1本だったり、またその逆もある。北のファカラバの海をより良く紹介してくれる。

